

SP-913 SIIT PrintRIP体験版インストール手順書

株式会社セイコーアイ・インフォテック

はじめに

このたびは、「SP-913 PrintRIP」体験版をご利用いただき誠にありがとうございます。

PrintRIPは、スプールフォルダ、またはドラック&ドロップで入力された印刷データファイル（TIFF/D-SCAN（注3）/D-SCAN C2/D-SCAN C/PDF（注2））を、ネットワーク上の弊社プロッタへ印刷するアプリケーションプログラムです。

また、スキャナから読み取ったTIFFファイルを印刷条件（拡大・縮小、コピー部数など）を指定し、ネットワーク上の弊社プロッタへ印刷するアプリケーションが同梱されております。

お客様の業務に合わせて、ご利用ください。

（注1）D-SCAN/D-SCAN C2/D-SCAN C データファイルは、本アプリケーションでは変換処理は行いません無変換でプロッタへデータを送信を行います。

D-SCAN は、弊社オリジナルのプロッタコマンドフォーマットです。

D-SCAN C2 は、HP-GL/2、HP-RTL 準拠のプロッタコマンドフォーマットです。

D-SCAN C は、HP-GL 準拠のプロッタコマンドフォーマットです。

（注2）PDF の印刷は、Adobe 社の Acrobat Reader を利用し印刷を行います。

PDF の印刷を行う為には、Acrobat Reader がパソコンに事前インストールされている必要があります。また、Acrobat Reader からの印刷は、Window のデフォルトプリンタを利用し印刷を行います。

印刷先の変更は、Windows のデフォルトプリンタ設定を変更してください。

（注3）LP-1120 は、D-SCAN コマンドデータファイルの印刷はできません。

【本製品に関する問い合わせ先】

株式会社セイコーアイ・インフォテック

E-Mail :

FAX :

1. インストール

本章では、お客様が本アプリケーションソフトウェアのインストール方法について、ご説明いたします。インストールを行う前に、本ソフトウェアをご利用になる動作環境をご確認ください。

1.1 動作環境

- ・対応オペレーティングシステム
 - Microsoft Windows98
 - Microsoft Windows NT 4.0J (日本語版) Service Pack 5以上
 - Microsoft Windows 2000 (日本語版)
- ・主記憶メモリ
 - 128Mbytes以上 (推奨)
- ・CPU
 - Pentium II (400MHz) 以上 (推奨)
- ・HDD
 - ソフトウェアインストールに必要な容量 (最小 2 Mbytes)
 - 印刷データスプールに必要な容量 (最小 10 Mbytes)
- ・ネットワーク
 - イーサネットI/F必須 (TCP/IPプロトコル)
- ・PDF印刷に必要なソフトウェア
 - Adobe Acrobat V4.0J
- ・取扱データファイル
 - TIFF ファイル**
 - データ形式：グレイ / 2値 TIFF ファイル
 - 圧縮形式：非圧縮 / G3 / G4 / PackBits (LZW は未サポート。)
 - 実長 (長尺) 作図制限：プロッタの持つ制限となります。
 - ファイル拡張子：tif

D-SCAN / D-SCAN C2 / D-SCAN C ファイル

- データ形式：D-SCAN (ベクター / ラスター)
 - D-SCAN C2 (HP-GL/2, HP-RTL)
 - D-SCAN C (HP-GL)
- 実長 (長尺) 作図制限：プロッタの持つ制限となります。
- ファイル拡張子：tif, pdf 以外の拡張子。

PDF ファイル

- データ形式：PDF (Adobe Acrobat で読込める形式。)
- 実長 (長尺) 作図制限：不可。(A3, A4 のいずれかに印刷可能です。)
- ファイル拡張子：pdf

1.2 ソフトウェアインストール

動作環境で特に問題がなければ、ソフトウェアのインストールを行います。

- (1) Windowsを起動します。
- (2) SP-913.EXEをダブルクリックして実行します。
実行後、Windowsの自動再生機能により、SP-913 SIIT PrintRIPインストールウィザードが起動します。
- (3) SP-913 SIIT PrintRIPインストールウィザード起動後は、表示されるダイアログボックスの情報にしたがい、インストールを行ってください。
特に、特別な指定を行わない限り「次へ」ボタンと「完了」を選択するだけで、ソフトウェアのインストールが行えます。
「完了」ボタンを選択後、Windowsの再起動を要求するメッセージが表示される場合は、Windowsの再起動を行ってください。
- (4) 以上の操作で、ソフトウェアのインストールは完了です。

2. スプールフォルダの作成

SP-913 PrintRIPで監視するスプールフォルダ（フォルダ）を作成します。

作成するスプールフォルダは、Windowsのエクスプローラまたはデスクトップ「マイコンピュータ」で作成します。PrintRIPで同時に監視できるスプールフォルダの数は、最大5つです。

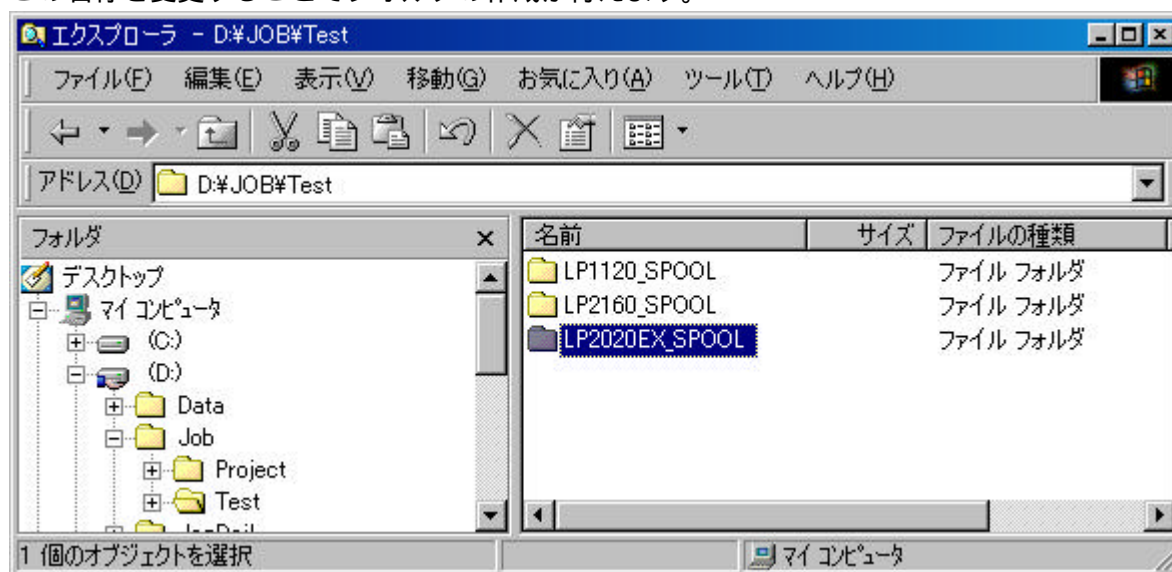
スキャンコピー（SP-913 SIIT ScanCopy）で監視できるスプールフォルダの数は、1つです。お客様の運用に合わせて作成してください。

エクスプローラでのフォルダ作成

「ファイル」メニューの「新規作成」「フォルダ」を選択します。

選択後、名前欄に「新しいフォルダ」という名称が表示されます。

この名称を変更することでフォルダの作成が行えます。



【情報】

PrintRIPをTIFF印刷サーバーとして利用したい場合

作成したスプールフォルダを共有設定を行うことで、ネットワーク上のユーザーに公開しTIFF印刷サーバーとして、公開する事ができます。

公開する際、PrintRIPがインストールされているパーソナルコンピュータ上でのユーザー権限が正しく設定されているか確認してください。Windowsは、フォルダごとにユーザーアクセス権を設定できるため、特定のユーザーが印刷できないといった問題が発生する事があります。

運用に合わせたユーザー権限の設定を行ってください。ユーザー権限の設定は、Windowsヘルプをご参照ください。「スタート」メニューの「ヘルプ」を選択しキーワードに「ユーザーレベルのアクセス制御」を入力することで、設定方法を調べる事ができます。

3．導入時の初期設定

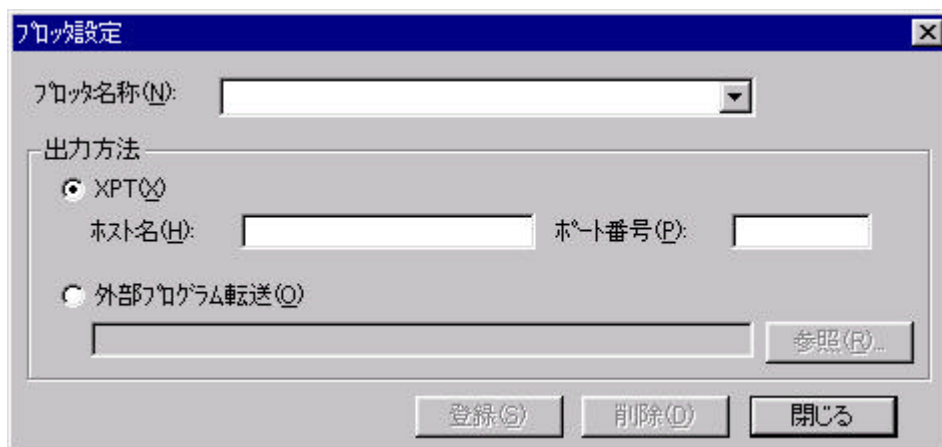
本章では、PrintRIPアプリケーション（以下、PRINTRIPと記述する。）初回起動時設定について記述します。インストール後、初めてご利用される場合は、必ずこの操作を行ってください。

【初期設定手順】

- 手順 1 : 3 . 1 プロッタ設定情報の作成
- 手順 2 : 3 . 2 スプール情報の作成
- 手順 3 : 3 . 3 スプールフォルダの設定と解除
- 手順 4 : 3 . 4 TIFF ファイル印刷条件の設定
- 手順 5 : 3 . 5 印刷

3.1 プロッタ設定情報の作成

PRINTRIPで印刷を行うプロッタの通信条件を設定します。(最大登録件数：32)
 プロッタの設定確認および設定につきましては、「4章 プロッタ設定」をご参照ください。
 メニューバー「オプション」から「プロッタ設定」を選択します。
 プロッタ設定ボックスが表示されます。



プロッタ設定ボックス上でプロッタ名称と通信方法を入力します。
 プロッタ名称は、任意文字(半角英数字, 最大40文字)で入力します。
 入力する文字は、プロッタ名称と設置場所を意味する名称を付加すると便利です。

入力後、通信方法を選択します。(XPT/外部プログラム転送)
 一つのプロッタ情報の入力が完了後、「登録」ボタンを選択します。
 全ての入力が完了後、「閉じる」を選択します。

「XPT」を選択した場合

ホスト名(プロッタのIPアドレスを直接入力します。またはhostsファイルに記述してあるホスト名を入力します。)とポート番号(XPTポート番号)を入力します。

各種プロッタのIPアドレスとポート設定値については、4章のプロッタ設定でご確認ください。

「外部プログラム転送」を選択した場合

外部プログラムコマンド文字列を入力します。
 または、参照ボタンを選択し外部プログラムを選択します。(ファイル選択ボックス)

(例1) バッチファイルを利用する場合

つぎのようなコマンドラインを含むBATファイルを作成し、BATファイルのフルパス名を入力します。

BATファイル例 lpr -S 10.5.67.227 -P LP01 %1

(例2) プログラム実行コマンドラインを直接記述する場合

LPRを使用し印刷を行う例 lpr -S 10.5.67.227 -P LP01

【注意】

「外部プログラム転送」を選択した場合、Windows作業用フォルダに一時ファイルが作成されます。
 Windows作業用フォルダの不要ファイル(拡張子TMP)は、お客様の責任において削除を行ってください。

3.2 スプール情報の作成

PRINTRIPで監視を行うスプール情報（スプール名称，スプールフォルダ，タイマー監視，転送後の後処理，出力プロッタ）を設定します。（最大登録件数：32）

（1）メニューバー「ファイル」から新規作成を選択します。

スプール名称，スプールフォルダ，タイマー監視，転送後の後処理，出力プロッタを入力します。入力完了後，「OK」ボタンを選択します。

スプール名称

スプール名称を任意（半角英数字，最大40文字）入力します。

スプールフォルダ

本アプリケーションで監視スプールフォルダを選択します。

選択は，スプールフォルダ欄の右にある「参照」ボタンを選択しフォルダ選択ボックスで選択します。

【注意】

複数のスプールで，スプールフォルダを重複し指定した場合は，優先度の高い1つのスプールのみ処理を行います。

NFSファイルシステム

本アプリケーションで監視するフォルダがUnixシステム上（NFS）の場合に使用します。

監視するフォルダがWindows-NT，Windows2000上の場合は，チェックする必要はありません。

タイマー値は，ホストの処理能力に合わせ入力します。（推奨値：10秒）

印刷

プロッタへ印刷するか選択します。（出力プロッタは，リスト（ ）より選択します。）

ファイル転送

ファイル転送するか選択します。（転送先は，「参照」ボタンを選択した後，フォルダ選択ボックスで選択を行います。）

【注意】

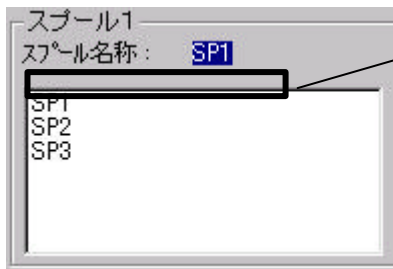
転送先フォルダとして，スプールフォルダを指定した場合の動作は，保証いたしません。処理が永久的に繰り返さないように指定を行ってください。

3.3 スプールフォルダの設定と解除

PRINTRIPで監視を行うスプールを設定します。

スプールフォルダの設定

- (1) スプールリスト上のスプール名称をマウスのマスターボタンでダブルクリックします。
ダブルクリック後、監視ホルダが設定されます。



設定完了後、メッセージが表示されます。

スプールフォルダの解除

- (1) スプールリスト上のスプール名称をマウスのマスターボタンでダブルクリックします。
ダブルクリック後、監視ホルダが解除されます。



設定解除後、メッセージが表示されます。

3.4 TIFF ファイル印刷条件の設定

TIFF ファイル内の情報を元に、どのA系列用紙に割当てするか条件を選択します。

初期値「クリップ(スケールを行わない)」「サイズマージン 10 mm」で運用される場合は、本設定を省略して頂いても結構です。

【操作手順】

- (1) 「オプション」メニューの「印刷条件」を選択します。



上記ダイアログボックスで、TIFF ファイル印刷条件を入力します。

補正方法

補正を行わない: TIFF ファイル内の情報を元に印刷データを作成します。

クリップ（スケールを行わない）：TIFF ファイル内の情報からどの A 系列の用紙に納まるかサイズマージンを考慮し用紙選択を行い，印刷データを作成します。

用紙に合わせて縮小：TIFF ファイル内の情報からどの A 系列の用紙に納まるかサイズマージンを考慮し用紙選択を行い，用紙に合わせて縮小印刷データを作成します。

補正值

サイズマージン：A 系列用紙サイズに対してのマージン値を入力します。（初期値：10 mm）

3.5 印刷

印刷は「停止」/「開始」ボタンを選択します。

設定後，スプールフォルダとして設定したフォルダに，印刷データファイルをコピーします。
コピー完了後，印刷が開始します。



4 . プロッタ設定

LP-2160の設定

本操作は、必要に応じて行ってください。

設定項目

- (1) IP アドレス (注 1)
- (2) サブネットマスク (注 1)
- (3) プロトコル (XPT ポートの追加)

(注 1) LP-2160 導入時の操作です。

すでにイーサネットを利用され印刷を行っている場合は、本設定を行う必要はありません。

(1) IP アドレスの設定

すでに IP アドレスが設定されている場合は、本設定は行う必要はありません。

[オフライン]を押しオフラインにします。

[>]キーでセットアップにします。

[] 3回 “ システム ” を表示します。

[>]で選択

[] 4回 “ イーサネットパラメータ ” を表示します。

[>]で選択 “ IP アドレス ” を表示します。

[入力]で設定開始 “ * 000.000.000.000 ” を表示します。

[][]で変更[>] [<]でカーソル移動します。

[入力]で設定完了

[] “ ジキョクサブネットマスク ” を表示します。

[入力]で設定開始 “ * 000.000.000.000 ” を表示します。

[][]で変更[>] [<]でカーソル移動します。

[入力]で設定完了

[<] “ イーサネットパラメータ ” を表示します。

[] 4回 “ システムパラメータホゾン ” を表示します。

[入力]2回で実行

[オンライン]で再起動後オンラインにします。

(2) ポートの設定

プロトコルの設定

[オフライン]を押しオフラインにします。

[>]キーでセットアップにします。

[] 2回 “イーサネット” を表示します。

[>] 選択 “ポート1” を表示します。

[>] 選択 “HPGL:1” を表示します。

[] 3回 “プロトコル” を表示します。

[>] 選択 “プロトコルセッテイ” を表示します。

[入力]で設定開始 “FTP” を表示します。

[] 2回 “XPT” を表示します。

[入力] 確定します。(ポート番号は1400です。)

パラメータの保存

[<] “プロトコル” を表示します。

[] 2回 “パラメータホゾン” を表示します。

[入力] 2回で実行します。

[オンライン]でオンラインにします。

LP-2020EX の設定

本操作は、必要に応じて行ってください。

設定項目

- (1) IP アドレス (注 1)
- (2) サブネットマスク (注 1)
- (3) プロトコル (XPT ポートの追加)

(注 1) LP-2020EX 導入時の操作です。

すでにイーサネットを利用され印刷を行っている場合は、本設定を行う必要はありません。

(1) IP アドレスの設定

すでに IP アドレスが設定されている場合は、本設定は行う必要はありません。

[オフライン]を押しオフラインにします。

[>]キーでセットアップにします。

[] 2回 “ システム ” を表示します。

[>]で選択

[] 3回 “ イーサネットパラメータ ” を表示します。

[>]で選択 “ IP アドレス ” を表示します。

[入力]で設定開始 “ * 000.000.000.000 ” を表示します。

[][]で変更[>] [<]でカーソル移動します。

[入力]で設定完了

[] “ ジキョクサブネットマスク ” を表示します。

[入力]で設定開始 “ * 000.000.000.000 ” を表示します。

[][]で変更[>] [<]でカーソル移動します。

[入力]で設定完了

[<] “ イーサネットパラメータ ” を表示します。

[] 4回 “ システムパラメータホゾン ” を表示します。

[入力]2回で実行

[オンライン]で再起動後オンラインにします。

(2) ポートの設定

プロトコルの設定

[オフライン]を押しオフラインにします。

[>]キーでセットアップにします。

- [] 1回 “イーサネット” を表示します。
- [>] 選択 “ポート1” を表示します。
- [>] 選択 “HPGL:1” を表示します。
- [] 3回 “プロトコル” を表示します。
- [>] 選択 “プロトコルセッテイ” を表示します。
- [入力]で設定開始 “FTP” を表示します。
- [] 2回 “XPT” を表示します。
- [入力] 確定します。(ポート番号は1400です)

パラメータの保存

- [<] “プロトコル” を表示します。
- [] 2回 “パラメータホゾン” を表示します。
- [入力] 2回で実行します。
- [オンライン]でオンラインにします。

LP-1120 の設定

本操作は、必要に応じて行ってください。

設定項目

(1) IP アドレス (注1)

(注1) LP-1120 導入時の操作です。

すでにイーサネットを利用され印刷を行っている場合は、本設定を行う必要はありません。

(1) IP アドレスの設定 (搬入時の設定操作)

すでに IP アドレスが設定されている場合は、本設定は行う必要はありません。

電源投入

“ ショキカチュウ ”
 “ シバラクオマチクダサイ ” を表示します。

“ ネットワークヲツカイマスカ? ”
 “ Y=エンター N=キャンセル ” を表示します。

[入力]キーでセットアップを行います。

“ アドレスヲセッテイシテクダサイ ”
 “ *000.000.000.000 ” を表示します。

[]で変更[>][<]でカーソル移動します。

[入力]で設定完了 (ポート番号は9100固定です)

“ トウロクシマスカ? ”
 “ Y=エンター N=キャンセル ” を表示します。

[入力]キーで登録を行います。

登録後自動的に再起動します。